

岩手大学環境人材育成プログラム学外実習の進捗状況とプログラム成果の検証結果（2011～18年度）

岩手大学環境マネジメント推進室環境管理実務士小委員会

平成 30 年度（2018 年度）年度計画：環境人材育成プログラム学外実習に関し自己点検評価を行い、達成成果と今後の学生支援の改善課題を明らかにする。

【自己評価点検結果・達成成果】

- ・環境人材育成プログラム学外実習で 2018 年度も提供しているのは、「日本最大級の環境展示会エコプロでの岩手大学ブース展示活動」（2012 年度から 7 年連続）・「北海道東神楽町吉原農場での農場経営・農業・食育体験」（2013 年度から 6 年連続）・「インドネシア・バリ島・国立ガネーシャ教育大学などにおける環境活動」（2015 年度から 4 年連続）である【表 1 参照】。そのうち、岩手大学環境人材育成プログラムのゴールである岩手大学認定資格「岩手大学環境管理実務士」取得要件「学外実習体験を踏まえ、環境マネジメントの観点に基づく提言書の作成・提出・承認」の対象となった学外実習は、「日本最大級の環境展示会エコプロでの岩手大学ブース展示活動」4 名（20 名中・20%：2012・14・15・18 年度）・「北海道東神楽町吉原農場での農場経営・農業・食育体験」5 名（20 名中・25%：2013・14 年度）である。「岩手大学環境管理実務士」取得要件を満たすことに寄与している。
- ・「インドネシア・バリ島・国立ガネーシャ教育大学などにおける環境活動」は、岩手大学（2016 年度は岩手県立大学当時 3 年生 1 名も参加）生と国立ガネーシャ教育大学言語芸術学部日本語教育学科（現：日本語教育コース）生・小学生（2016 年度）・高校生（2018 年度）が、省エネ・廃棄物分別・環境教育などの環境活動に加え、国際・異文化交流が実現している貴重な活動と言える。
- ・「松尾鉱山跡地の育樹活動」・「KidsISO14000 プログラム」（中級編：地域活動・上級編：国際活動）は 2018 年度も参加募集を継続。前者は 2014・17 年度、後者は 2015 年度のように参加希望者がいれば、受入団体担当者と相談のうえ、実施できる可能性がある。
- ・岩手大学科目「環境マネジメント実践演習」後の環境報告書フォローアップ・環境マネジメントシステム規格エコアクション 21 認証取得支援（2012 年度）のように、関係者から要望があり、参加希望者がいれば、学外実習の実施可能性を検討できる。また、岩手大学認定資格「岩手大学環境管理実務士」取得希望者が自ら参加したボランティア活動・インターンシップを題材に提言書を作成、提出することも引き続き受け入れる（これまで 3 名が該当）。

【今後の学生支援の改善課題】

- ・岩手大学認定資格「岩手大学環境管理実務士」取得希望者が 2017 年度は 0 名。2016 年度以降、「環境マネジメント実践学」での内部監査補助員候補者が減少している（1・2 名）（岩手大学環境人材育成プログラムの進捗状況と成果の検証結果（2011～19 年度）：「表 2 岩手大学環境人材育成プログラム環境マネジメント科目受講者数と岩手大学環境管理実務士取得者の変遷」参照）。広報などを通して希望者を増やす。全学的な広報の展開が課題。
- ・「岩手大学環境管理実務士」取得希望者が環境人材育成プログラムで提供する学外実習へ優先的に参加できるようにすることは変わらず行いつつ、今まで通り希望する岩手大学の学生が要件を満たせば環境分野の地域・国際活動に関する学外実習に参加できるように予算・人的などの支援を引き続き行う

ことが課題。要請に応じて、他の岩手大学内外の活動との協働の可能性も検討する。

表1 岩手大学環境人材育成プログラム学外実習参加者延べ人数（2010～19年度）

学外実習	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
来館者インタープリター活動	1	1								
盛岡市役所IES自己評価		6	2	1	1					
森の生活スクールスタッフ		2	1							
環境報告書作成後フォローアップ			3							
盛岡市役所・環境配慮活動現状分析			3							
釜石市内仮設住宅ヒーリングプロジェクト			4							
エコプロ展示活動			2	3	4	2	2	3	3	4
農場経営・農業・食育体験				5	3	3	4	1	2	3
松尾鉱山跡地育樹活動					2			2		
ミズアオイ群落保護プロジェクト						5				
Kids' ISO14000プログラム						5				
インドネシア・バリ島・環境活動						4	2	3	4	5

表2 「岩手大学環境管理実務士」取得者による 提言書対象の学外実習プログラム学外実習	10 年度	11 年度	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度	18 年度	19 年度	計（対象率）
来館者インタープリター活動	1	1							2（100%）
盛岡市役所 IES 自己評価		3	1	1	1				6（60%）
環境報告書作成後フォローアップ			2						2（67%）
エコプロ展示活動			1		1	1	1	1	5（22%）
農場経営・農業・食育体験				3	2				5（38%）

（注）岩手大学環境人材育成プログラム提供の学外実習のみを抜粋。提言書は、3日間・3時間以上の要件を満たせば、取得者自身が参加したボランティア活動・インターンシップを対象にすることが可能。

岩手大学環境人材育成プログラムの進捗状況と成果の検証結果（2011～18年度）

岩手大学環境マネジメント推進室環境管理実務士小委員会

【総合結果】

- ・「表1 岩手大学環境管理実務士一覧」「表2 岩手大学環境人材育成プログラム環境マネジメント科目受講者数と岩手大学環境管理実務士取得者の変遷」「岩手大学環境人材育成プログラムアンケート調査結果（2018年8月1日現在）」より、2011～18年度における「岩手大学環境人材育成プログラム」の進捗状況と成果を検証した。
- ・検証の結果、9年間（2011～20年度）で計23名の「岩手大学環境管理実務士」取得者を輩出【表1参照】。岩手大学環境人材育成プログラムアンケート調査（回答者「岩手大学環境管理実務士」取得者）結果から、「プログラムに参加して良かったこと、プログラムで身に付いたこと、できるようになったこと」【同調査結果Q2・3参照】について「環境マネジメント」（岩手大学ISO14001環境マネジメントシステム内部監査・中小企業の環境報告書支援）の観点を主として多くの回答が見られ、アンケート回答者の約68%（15名）が「岩手大学環境人材育成プログラムを後輩にも（すごく）薦めたい」と回答【同アンケート調査結果Q6参照】するなど、岩手大学環境人材育成プログラムが一定の成果を挙げていることがうかがえる。
- ・成果の一方で、「岩手大学環境管理実務士」取得者にとって、岩手大学環境人材育成プログラムへの参加、特に中小企業の環境報告書を作成支援する講義「環境マネジメント実践演習」や地域貢献の学外実習（インターンシップ・ボランティア活動）の移動・スケジュール調整・取組内容で、充実感がありながらも負担感が大きく、サポートを望んでいることが分かる【同アンケート調査結果Q4参照】。また、岩手大学環境人材育成プログラムの広報を充実させる必要や人文社会科学部（環境科学課程）以外の学部生の参加を増やす（2017年度からは人文社会科学部地域政策課程も対象）ようなプログラムのあり方を再検討する必要などが挙げられていること【同アンケート調査結果Q5参照】から、課題・改善の余地は残されていると言える。
- ・ただ、環境人材育成プログラムの課題・改善には、改組による課程の変更（特に「環境科学課程」→「地域政策課程」）、改組による科目の変更【環境教育科目・ESD科目の変更、「環境マネジメント実践学」総合科目→地域科目のカテゴリー変更、「環境マネジメント実践演習」→「地域環境マネジメント実践演習」の名称・内容変更など】、岩手大学による環境マネジメントシステムの運営変更（「ISO14001÷2004」から「エコアクション21÷2009」への切り替えなど）などが影響してくることから、全学的な変更を踏まえ、2～3年かけて対応していくことが必要になる。

【個別結果】

- ・「岩手大学環境管理実務士」取得者 22 名のうち、人文社会科学部所属学生が 20 名（約 91%）、環境科学課程所属学生が 17 名（約 77%）を占める。また、岩手大学環境マネジメント学生委員会所属学生が 17 名（約 77%）であった【表 1・2 参照】。
- ・「岩手大学環境管理実務士」取得者のうち、卒業後の進路として、環境関連の仕事に就いている卒業生として、岩手県庁環境生活部自然保護課に勤めていた。他に、講義「環境マネジメント実践演習」受講者が卒業後、盛岡市役所環境企画課に勤めていた【朝日新聞朝刊岩手大学特集記事で紹介】。
- ・「岩手大学の環境マネジメント」（2011 年度から「環境マネジメントと岩手大学」）から「環境マネジメント実践学」への継続受講者が 2012～15 年度には 15%程度に減少。2016 年度以降 1～3%程度にさらに減少。一方、「環境マネジメント実践学」から「環境マネジメント実践演習」（2017 年度から「地域環境マネジメント実践演習」）の継続受講者は 2017 年度まで 40%以上（2018 年度は 0%）、「岩手大学環境管理実務士」取得に至るのは 2016 年度まで 20%以上（2017 年度は 0%）、「環境マネジメント実践演習」から「岩手大学環境管理実務士」取得に至るのは 2016 年度まで 40%以上（2017 年度は 0%）を確保するなど、「環境マネジメント実践学」で内部監査補助員として岩手大学 ISO14001 環境マネジメントシステム内部監査に携わる学部生は「環境マネジメント実践演習」を一定数受講し、「岩手大学環境管理実務士」取得まで辿り着いていた。「環境マネジメント実践演習」の希望定員が 10 名前後であることを踏まえると、「環境マネジメント実践学」の継続受講者（内部監査補助員候補者）を 10 名くらい確保することが 1 つの目標となる【表 2 参照】。
- ・人文社会科学部環境科学課程と EMSC（岩手大学環境マネジメント学生委員会）所属学生は、「環境マネジメントと岩手大学」で 2011 年度から最高 20%を占める程度である（他のカテゴリーの学生の方が多い）ものの、「環境マネジメント実践学」「環境マネジメント実践演習」「岩手大学環境管理実務士」取得で人社環境は 70%以上（2017・18 年度の人社地域は 50%と 0%）、EMSC は 60%以上（2017 年度以降 0%）を占め、100%になるところも見られた【表 2 参照】。「環境マネジメントと岩手大学」から「環境マネジメント実践学」への継続受講生を増やす際には、人文社会科学部環境科学課程あるいは EMSC 所属学生以外の受講生をどのように増やすかがカギとなる（2017 年度以降は地域政策課程・EMSC 所属学生も対象となった）。

以下、岩手大学環境人材育成プログラムアンケート調査結果（2018 年 8 月 1 日現在）より

- ・「Q2 プログラムに参加して良かったこと」「Q3 プログラムに参加して、身に付いたこと、できるようになったこと」について、【環境マネジメント：内部監査・環境報告書】に関する回答が多く見られる。岩手大学 ISO14001 環境マネジメントシステム内部監査と中小企業の環境報告書作成支援を通して、内部監査や環境報告書、（中小）企業の環境活動の理解を受講生が深められたことが分かる。
- ・「Q4 プログラムの内容やカリキュラムで難しかった、大変だったこと」について、講義「環境マネジメント実践演習」の移動やスケジュールと環境マネジメントの内部監査・中小企業の環境報告書作成支援に関する回答が多く挙げられた。「環境マネジメント」については、「Q5 プログラムの内容やカ

リキュラムで改善すべき点」としても指摘された。

- ・「Q5 プログラムの内容やカリキュラムで改善すべき点」として、「環境マネジメント」の観点以外に、「プログラムのメリット・PR」「科目・カリキュラム・指導法」の回答が挙げられた。前者は広報の更なる充実、後者は人文社会科学部（環境科学課程）以外の学部生が環境人材育成プログラムに参加するための改善が必要であることが分かる。
- ・「Q6 プログラムへの参加を後輩に薦めたいか」について、約 68%が「(すごく) 薦めたい」と回答。プログラムへの参加は大変であるとしながらも、環境への思いや理解、知見や視野の広がり、プログラムならではの経験ができるなどの理由が挙げられている。一方、履修上の厳しさなどの理由で「あまり薦めたくない」や「どちらでもない」の回答も見られた。

表1 岩手大学環境管理実務士一覧 (2021年2月現在)

取得年度	取得者	学部	課程・学科	学年(当時)	EMSC	進路
2011年度	第1号	人文社会科学部	環境科学課程	4年	○	盛岡市役所
	第2号					福祉施設→NPO→公民館
	第3号		国際文化課程	○	駅ビルサービス施設→岩手大学非常勤職員 →自動車会社ディーラー	
	第4号	工学部	マテリアル工学科	○	アミューズメント施設→転職	
	第5号	人文社会科学部	環境科学課程	3年		不明
	第6号					不明
第7号	日本赤十字社					
2012年度	第8号		法学・経済課程	○	広告関係企業→損害保険会社	
	第9号		環境科学課程	○	大学院(教育学)	
2013年度	第10号	農学部	農学生命課程			農業機械関係企業
	第11号	人文社会科学部	国際文化課程	○		岩手県教員
	第12号		環境科学課程	○		岩手県庁
2013年度	第13号	人文社会科学部	環境科学課程	3年		不明
	第14号					富士ゼロックス岩手支社
2014年度	第15号					東日本銀行
	第16号					製造業
	第17号					宮城県庁
2015年度	第18号					
	第19号			○		農林水産省
2016年度	第20号			○		北上市役所
	第21号			○		岩手県庁

2018年度	第22号		4年	○	東北電力
2020年度	第23号	地域政策課程	3年	○	

表2 岩手大学環境人材育成プログラム環境マネジメント科目受講者数と岩手大学環境管理実務士取得者の変遷

①環境マネジメントと岩手大学 (岩手大学の環境マネジメント)							②環境マネジメント実践学							③環境マネジメント実践演習/地域環境マネジメント実践演習							④岩手大学環境管理実務士取得者															
カテ ゴリー	開講 年度	登録 者数	内訳				カテ ゴリー	開講 年度	登録 者数	有資格 者数	② /①	有資格者中内訳				カテ ゴリー	開講 年度	登録 者数	有資格 者数	③ /②	③ /①	有資格者中内訳				授与 年度	取得 者数	④ /③	④ /②	④ /①	④ /入学者数	内訳				
			人 社 環 境 地 域	EMSC	人 社 環 境 地 域	EMSC						人 社 環 境 地 域	EMSC	人 社 環 境 地 域	EMSC							人 社 環 境 地 域	EMSC													
総合 科目	2009	79	32	41%	16	20%	総合 科目	2010	68	32	41%	20	63%	13	41%	人 社 専 門 科 目	2010	13	13	41%	16%	10	77%	6	46%	2011	6	46%	19%	8%	0.25%	4	67%	3	50%	
	2010	27	15	56%	7	26%		2011	40	14	52%	9	64%	7	50%		2011	11	11	79%	41%	9	82%	4	36%	2012	3	27%	21%	11%	0.26%	2	67%	2	67%	
環境 教育 科目	2011	78	5	6%	2	3%		2012	23	12	15%	9	75%	10	83%		2012	5	5	42%	6%	3	60%	4	80%	2013	5	100%	42%	6%	0.42%	3	60%	4	80%	
	2012	61	10	16%	7	11%		2013	31	6	10%	5	83%	4	67%		2013	10	6	100%	10%	5	83%	4	67%	2014	3	50%	50%	5%	0.26%	3	100%	3	100%	
	2013	74	15	20%	15	20%		2014	18	10	14%	10	100%	8	80%		2014	5	4	40%	5%	4	100%	4	100%	2015	2	50%	20%	3%	0.17%	2	100%	2	100%	
	2014	50	7	14%	8	16%		2015	14	8	16%	7	88%	8	100%		2015	5	5	63%	10%	5	100%	5	100%	2016	2	40%	25%	4%	0.17%	2	100%	2	100%	
	2015	60	4	7%	4	7%		2016	6	2	3%	2	100%	2	100%		2016	2	2	100%	3%	2	100%	2	100%	2017	0	0%	0%	0%	0%	0	0%	0	0%	
	2016	68	5	7%	5	7%		地域 科目	2017	10	2	3%	1	50%	0		0%	2017	4	1	50%	1%	1	100%	0	0%	2018	1	50%	50%	2%	0.08%	1	100%	1	100%
	2017	70	18	26%	6	9%			2018	9	1	1%	0	0%	0		0%	2018	2	0	0%	0%	0	0%	0	0%	2019									
	2018	78	8	10%	5	6%			2019									2019																		
合計	645	119	18%	75	12%	合計	219		87	13%	63	72%	52	60%	合計	57	47	54%	7%	39	83%	29	62%	合計	22	47%	25%	3%	0.31%	17	77%	17	77%			
10年平均	65	12	8			9年平均	24	10	7	6			9年平均	6	5	4	3			8年平均	3					2	2									

EMSC: 岩手大学環境マネジメント学生委員会

岩手大学環境人材育成プログラムアンケート調査結果 (2021年2月現在)

回答者所属・回答数 23 名 (回答数中の割合) 【アンケート回答当時】

人文社会科学部：21 名 (約 91%) 環境科学課程：17 名 (約 74%) 国際文化課程：2 名 (約 9%) 法学・経済課程：1 名 (約 4%)
／地域政策課程：1 名 (約 4%)

工学部・マテリアル工学科：1 名 (約 4%)

農学部・農学生命課程：1 名 (約 4%)

Q1 プログラムのカリキュラムを理解して参加できましたか。(1 つだけ番号に○を記入、囲む)

- 1 しっかりと理解できた：回答数 7 (約 30%) 2 理解できた：回答数 15 (約 65%)
3 どちらでもない
4 あまり理解できなかった：回答数 1 (約 4%) 5 まったく理解できなかった

Q1-1 Q1 で 4・5 に回答された方にお尋ねします。プログラムを「あまり」又は「全く」理解できなかったのはなぜですか。(自由回答)

・環境教育科目「環境マネジメントと岩手大学」をとらなければいけないことを知らなかった。

Q2 プログラムに参加して良かったことは何ですか。その理由と合わせてご回答ください。(自由記述)

【ESD 科目】

- ・ ESD 科目では葛巻村や地元企業などの方々が講演してくださり、授業としても興味を惹かれるような内容だった。
- ・ 持続可能なコミュニティづくり実践学と地元の企業に学ぶ ESD は県内の様々な人たちが講演してくださり、環境の側面以外にも経営やノウハウやアンテナの高さを身に着けることができた。

【環境マネジメント：内部監査・環境報告書】

- ・ 現在多くの企業で取り入れられている環境管理手法が学べたことにより、環境負荷低減の対策を企業の視点で学ぶことができた他、企業の環境管理計画に参加したという経験が得られた。
- ・ 学生時に企業・大学と連携して内部監査や環境報告書を実行・作成し、職務の大変さや、そのやりがいを感じる事が出来た。
- ・ 最初、内部監査がどういうものなのかイメージが難しかったが、実際に経験できる機会も多く、徐々に理解を深めることができた。また企業と協力したことも新鮮で、環境経営という視点を持つことができたことが良かった。

- ・これから社会に出る前に、企業の仕事内容を理解したり、実際に働く現場をみることができたこと。
- ・実務的な活動と、環境マネジメント学生委員会の活動を連携しておこなえたこと（インタビュー、環境報告書作成、企業の方との話し合いなど）。
- ・プログラムを通して、3年間環境について学んだため、環境について知識を身につけることができた。環境という観点から私たちが企業や団体を監査し、環境についてアドバイスさせてもらう立場というのはなかなか経験できるものではないので、貴重な経験ができたと思う。また、学生主体となって考える機会が多く、一人一人真剣に、監査した団体のエコについて考えることができたと思うので良かった。
- ・大学の中だけの授業ではないので、企業の方や行政に携わる方々、さまざまな視点から環境マネジメントについて考えることが出来た。
- ・環境報告書作成で企業の方と長期期間に渡って、コミュニケーションが取れたこと。
- ・環境報告書の作り方が、ある程度理解できた。
- ・環境報告書作成の補助をすることで、大学や企業が行っている環境行動への理解度が増した。
- ・プログラムに参加したことで環境マネジメントの視点から、環境に関する様々な取り組みや考え方をすることができただけでなく、環境マネジメント実践演習では中小企業の方と環境報告書を一緒に作り上げたことで、中小企業の環境に対する考え方を知ることができたり、自分の環境に関する考えや様々な提案をさせていただくこともでき、とても貴重な経験をすることができた。
- ・EMS 学生委員会でも環境マネジメントに関して学んだことはあったが、環境レポートを通して2つの企業の環境配慮活動を知ったり、文章にすることで考える機会になった。
- ・実際に岩手大学の環境マネジメントに触れることが出来たり、実習という形で他の環境マネジメントに触れることができて、実際の環境配慮行動とは何か知ることができたから。
- ・内部監査では仲間や内部の方とお話する機会がたくさんあり、普段見ること・できないことを経験でき、よかった
- ・自分で目標を決めてそれを達成するということの大事さを知った。また、それをどのように厳しく審査していくかというときに、第三者機関の大切さを実感した。
- ・環境マネジメントと岩手大学は数ある環境科目の中でも最も楽だったので、苦労がなかった。
- ・環境マネジメント実践学では、今までかかわったことのない先生と話すことになり、仲良くなることができた。
- ・様々な主体の環境マネジメントについて、実際に団体を訪問できたことはよかった。現場の声を聞けたり、また内部監査を通して環境マネジメントを体感できたりして、実践的に学習することができたから。

【学外実習】

- ・学外実習で盛岡市役所や旧松尾鉱山など、普段では行けないような所に行けたこと。
- ・北海道という広大な面積をもつ土地で農作業体験ができたことです。農業は岩手県でもさかんに行われていますが、規模がまるで違うため、岩手県ではなかなか見られない大規模な農業形態を実際に目で見て体験することができました。
- ・学外実習では企業の人とお話しする機会がたくさんあり、普段見ること・できないことを経験でき、よかった

【プログラム全体】

- ・プログラム全体を通して、「環境」に対して真剣な様々な人と出会えたことです。その人との出会いを通して、自分も環境への問題意識を高め、学びにつながりました。
- ・ESD に関してや環境報告書の作成、内部監査など幅広い分野を学び、様々な経験ができたこと。
- ・環境に対する見方が変わり、今までとは違った視点で物事を考えることができるようになった。
- ・第一点として、自らの専門外の事柄を学習することで、知見が今まで以上に広がったことがあげられる。また、プログラムの中で学んだ内容は、今後も自らの為になるようなものであった。
- ・大学内だけではなく、企業や役所の環境に対する取り組みを知ることができ、自分の視野が広がったこと。
- ・普通では体験できないような貴重な体験がたくさんできた。
- ・学内での環境活動だけでなく、地元の企業が行っている環境配慮の取り組みについて学ぶことができて良かった。

Q3 プログラムに参加して、身に付いたこと、できるようになったことをご回答ください。

(自由記述)

【環境教育科目・ESD 科目】

- ・ESD 科目や環境教育科目では、生物多様性や住みよい社会など、広義の意味での“環境”について知ることができた他、持続可能な発展、生物多様性の保全など、現代の社会ニーズに即した問題への知識を得ることができた。

【環境マネジメント：内部監査・環境報告書】

- ・内部監査では、内部調査の方法や問題の発見能力、改善点の報告、環境負荷低減の具体案の作成など、環境管理能力を身につける事が出来たほか、PDCA サイクルに基づいた能力を培う事が出来た。

- ・内部監査の一通りの流れ。環境経営の視点。
- ・企業の方と環境報告書を作成するにあたって、環境報告書の必要性について理解できるようになった。最初は知識を身につける授業が多かったが、その知識を生かして学生が主体となって取り組む授業が多くなり、自ら考え行動することができるようになったと思う。
- ・環境報告書を作成し、自分たちでも環境報告書を作成できるという自信ができた。
- ・環境マネジメントシステムが運用されているかどうか監査する内部監査では、大学内の環境への取り組みを改めて知ることができました。また、企業の環境報告書作成の手伝いを通して、問題把握能力やコミュニケーション能力が身についたと思います。
- ・学内外問わず、意見を交換し合い、一つのことやものをつくること（内部監査、環境報告書づくり等）。
- ・授業全体や内部監査などを通じて、他の授業ではあまり聞くことや体験することができなかった PDCA サイクルの考え方や ISO14001 についてなどの「環境マネジメント」という概念を知ることができ、その概念から持続可能な社会の形成を結び付けて考えることができるようになった。
- ・環境報告書の作成、環境マネジメント規格について学習、環境配慮に熱心に取り組んでいる企業の訪問、など企業と環境配慮のかかわりについて学ぶことが多く、企業の環境への取り組みについての理解が深まった。
- ・環境マネジメントの観点から、企業の活動を見れるようになった（以前より）。
- ・環境マネジメントシステムについての知識が身につき、システムの改善点を提案できるようになったこと
- ・環境マネジメントの手法。主に、ISO14001 であるが、環境マネジメント規格を用いた環境行動。
- ・課程の授業などで環境問題について考えるときにも、マネジメントの視点から考えることもできるようになった。
- ・なんのためにその目標を立てるのかという、何に基づいて基準を決めるのかということを考えるようになった。ただ規則だからという理由でなく、自分で考える力がついたと思う。

【学外実習】

- ・ボランティアに参加するという事への抵抗がなくなった。
- ・プログラムで実際に農業体験をさせていただき、農業の楽しさや大変さなど身をもって感じるすることができました。また、生産者の方や農業に携わる方の農業や食育に対する思いに触れ、今までの自分の食育に関する考え方を改めるきっかけになり、さまざまな知識をつけることができました。

【その他・環境全般】

- ・企業の方、先生方、受講している学生など、ともに活動する人との連絡をきちんと取り、意思の疎通を図ること。
- ・環境について知識が身に付いた。

- ・環境に対する想いが強まった。
- ・資料の集め方、まとめ方。
- ・学外の方との連絡のとり方。環境というものに対する視点。
- ・身近な事象に目を向けて、課題提起する姿勢。
- ・狭い視野にとらわれずに、多角的に物事を捉えようとする姿勢。
- ・自らが保有している専門的知識を除外して、考察すること。
- ・講義等で身についた専門的な知識の活かし方が身に付き、また積極的に行動することができるようになった。
- ・電気使用量などにデータから問題を分析して、課題解決の方法を考える力が身についた。
- ・情報を得るためには、自分から発信することとアンテナを常に高く上げ続けることが大切だと感じた。これは就職活動を通して、特に役に立った。
- ・一方向だけではなく、色々な角度から物事を考えることができるようになったし、問題解決能力が上がったと感じる。

Q4 プログラムの内容やカリキュラムで難しかった、大変だったことは何ですか。その理由と合わせてご回答ください。(自由記述)

【スケジュール・移動】

- ・困難と感じたことは特になかったが、環境マネジメント実践演習における企業との連携した環境報告書の作成については、企業と連絡を取り合いながらも自分達で授業の合間や休日を使って訪問・報告書の作成を行うのは大変だった。しかしそれ故に達成感や充実感も大きく、記憶に残る活動だった。
- ・実践が多いためスケジュールを合わせるのが大変だった。
- ・「環境マネジメント実践演習」での、企業訪問手段の確保（交通の便が悪い所への対応にご協力いただきましたが、実はそれ以外のグループの方が大変だったかもしれません。）
- ・環境マネジメント実践演習では、本当に学生主体だったので、企業の方とお会いできる日にちも限られていたため、一回一回の企業訪問を無駄にしないために、サクサクと進めるための計画を立てるのが大変だった。
- ・学外実習の際の交通手段の確保
- ・企業への訪問のスケジュール管理や移動が大変だった。

【環境マネジメント】

- ・マネジメントや内部監査の概念を理解するまでに時間がかかったのと、それに関する規定が多いので覚えるのが難しかった。

- ・環境マネジメント、内部監査
- ・環境マネジメント実践演習での企業の環境報告書作成の手伝いは、何度もグループ内で話し合いを設ける必要があり、企業とも連絡を密に取らなければならなかったのが大変でした。
- ・内部監査は年上の人ばかりで緊張したし、内部監査に関する知識が十分でないまま、実際に内部監査をしたことは大変だった。
- ・環境報告レポートの作成において、非常に時間がかかり大変だった。
- ・環境マネジメント実践演習で、企業様とのやり取りに苦労した。
- ・報告の作成が1番大変だったし、難しかった。環境マネジメント実践演習の環境レポート作成で、チームワークがうまくいかず、負担がすごく増えた。
- ・環境マネジメントマニュアルの難解さ
- ・環境マネジメント実践演習での環境報告書づくりが大変だった。資料やデータをまとめるのが大変だった。
- ・環境マネジメント実践演習は、データの分析を全くしたことがない中での分析だったので、精神的にきつかった。テストやレポートに追われていたら、すべてがダメになっていたかもしれない。

【学外実習】

- ・レポート 3,000 字。農業と環境マネジメントを絡めながら書くのに苦労した。
- ・学外実習での体験について、環境マネジメントの視点から提言書を書くことが大変だった。なぜなら学外実習の期間があまり長くなかったので、PDCA サイクルがしっかりと適応できているかについてなど見極めることが難しく、どのような提言をしていくべきなのかはっきりとした意見をなかなか書くことができなかったからだ。
- ・慣れない環境での実習は非常に大変だった。しかし、その大変さがあったからこそ身についたものも多いと思う。
- ・プログラムのほとんどの内容が農作業ということもあり、体力的に非常に大変でした。また、農学部ではないので農業についての知識があまりなく、教えていただくことに関して十分に理解できていなかったように思います。
- ・学外実習の期間が短く、提言書を作成するのが大変だった。

【その他】

- ・企業の方は学生ならではのアイデアを求めていらしかったので、アイデアを捻出するのに苦労した。
- ・企業とのやり取りで、いかにその企業のしていることを理解して、アピールしていく方法を考えることが難しかった。

- ・私たちが初めての環境人材育成プログラムの受講者だったため、なかなかどのように進めたら良いのか、どの科目をとればいいのか混乱した。
- ・プログラムに参加した当初は、プログラムの内容があまりに専門外であるため、付いていくので精一杯であった。
- ・特になし

Q5 プログラムの内容やカリキュラムで改善すべきと思うことをご回答ください。(自由記述)

【プログラムのメリット・PR】

- ・環境監理実務士の資格を得る事によって得られるメリットを教えてほしかった。
- ・受講生を増やすために、環境管理実務士の取得をもっと PR できたらいいのではないかと思う。
- ・多くの能力が身につく有意義な実習であるだけに、一つ一つの内容が大変で、受講人数が少ないのがもったいないと思います。
- ・環境管理実務士の取得を目指す学生がもっと多いといいと思った。
- ・一年の環境科目を選ぶ際に、環境管理実務士のことをシラバスに記載するだけでなく、掲示板等で周知すべきだと思う。

【環境マネジメント】

- ・岩手大学内の内部監査では、生徒も参加するが実際の場面では教授陣と同伴した指導担当との話し合いが主体となっていて、生徒は機械的に質問するだけだったので、もう少し生徒が積極的に参加できるような流れにしてほしいと感じた。(その分、生徒によっては面倒だと感じてしまうカリキュラムになってしまうかもしれないが)
- ・特に「環境マネジメント実践演習」に人社以外の学生も多く受講してもらえたら、良い意見交換ができたのではと思う。
- ・「環境マネジメント実践演習」での、企業訪問手段の確保(交通の便が悪い所への対応にご協力いただきましたが、実はそれ以外のグループの方が大変だったかもしれません。)
- ・環境マネジメント実践演習では、仕方ないのかもしれないが、企業訪問の移動がとても難しかったので、何か改善できる方法はないのかなと思う。
- ・環境マネジメント実践学の授業で行った内部監査を、学内だけでなく他の場所でも体験することができるような時間が授業の中にあってもよいと思う。

【科目・カリキュラム・指導法】

- ・どの科目が ESD 科目なのかもっと解りやすくした方がいいと思う。

- ・カリキュラム上、環境専門科目や他の科目の履修とかぶることや、授業外学習・実習があるので、他のメンバーや企業の方との時間を合わせる事が大変だった。
- ・プログラムで履修する必要がある「環境マネジメント実践演習」が、人文社会科学部の専門科目だったため、受ける事が出来なかった人がいたので、出来るなら学部の専門科目では位置づけにいて欲しい。
- ・学外実習内容を増やし、受講する人の選択肢を増やす。
- ・もっと学外実習の期間を増やしていくべきだと思う。
- ・「環境」に関わる過程やコース以外の学生がプログラムに参加しやすいように改善策を取るべきである。講義の中で、学生を誘導するように、指導するなど、学生の自助努力だけでなく、教員側のスタンスも改めるべきではないか。
- ・人文社会科学部以外の学生が必要な授業を受けにくい環境にあること
- ・可能であれば、学外実習の種類をもっと増やしていただけると、さらに参加しやすくなると思います。
- ・岩手大学環境管理実務士取得に必要な科目が1年生にとってはイメージしづらいと思いました。
- ・私は吉原農場についてあまり調べずにインターンシップに参加したので、現地に行ってから知ることがたくさんありました。インターンシップを受ける前に、参加させていただく受け入れ場所についてしっかりと勉強したほうがいいと思いました。
- ・学外実習を通して提言書を作成するために実習期間が短い。
- ・提言書の作成方法についての説明をもっと詳しくしてほしい。
- ・学外実習の提言書作成が必要であることを前もって説明してほしい。
- ・環境マネジメント実践演習は本当にきついで、覚悟が必要。それまでの科目は楽なものしかないので、もう少しバランスよくしてほしい。
- ・4年次になってから申請することを思い出し、調べたので、3年次の提出期限までに1度広報してほしかった。

【その他】・特になし。

Q6 プログラムへの参加を後輩に薦めたいですか。(1つだけ番号に○を記入、囲む)

- 1 すごく薦めたい：回答数4 (約17%) 2 薦めたい：回答数12 (52%)
 3 どちらでもない：回答数6 (約26%)
 4 あまり薦めたくない：回答数1 (約4%) 5 全く薦めたくない

Q6-1 「(すごく) 薦めたい」または「(あまり・全く) 薦めたくない」理由をご回答ください。(自由記述)

「(すごく) 薦めたい」

- ・環境監理実務士は、現在社会で取り組まれている環境マネジメント手法を学んだ証明となるものであり、将来において環境活動のニーズが高まり、どのような職務についても関わる事になる可能性が高い。その時、環境管理の経験があれば、仕事もスムーズに行えるほか、企業に新しい視点を見出せる人材になり得るからである。
- ・視野が広がり、主体性を得ることができるプログラムだから。最後まで受講するのは大変かもしれないけど、大学の取り組みを知り、地域の企業の立場にもなって考えることができる。普通の講義よりも学ぶ新鮮さとおもしろさがあった。
- ・大変だったけど、他の授業では経験できない学外実習など、貴重な経験ができるので、自分を高めることができると思う。
- ・岩手大学は、エコ大学ランキングでもいつも上位入賞している大学なので、せっかく岩手大学に入ったのなら、環境を学んでみるのもいいと思う。
- ・環境への想いや意識が強くなるため。
- ・参加することで、環境についての学びが深まるからです。
- ・大変なことも多いが、このプログラムに参加しなければ学べなかったことも多くあるし、環境を学ぶ上でこの経験がプラスになったと思うから。
- ・正直、自らの専門とは全く関係ないように思えるプログラムだが、視野と知見を広げるには最適のプログラムであるからだ。
- ・他の授業と違って、学生が考え、行動することが多いので、様々な力が身につくと思うから
- ・非常に大変なプログラムではあるが、その分、環境人材としての資質は養われると思う。時間があるのであれば、参加した方が良いと思う。
- ・楽しく、かつたくさんのお話を学ぶことができたから。
- ・自分で考えて管理していくことや、アピールポイントを探していけるようになるから。

「(あまり・全く) 薦めたくない」

- ・履修上、厳しい。

「どちらでもない」

- ・学業における達成感や自分の強みになると思うが、その分大変なことが多いから。